西南戦争遺跡

西南戦争とは

江戸時代の日本では、幕府は縁が深い小藩の藩主や旗本を主な担い手として政治を行い、外様の大きな藩は幕府の指示を受けながら、領地の統治に専念していました。この体制で国内は安定していたのですが、1853年にペリーが艦隊を率いて来航し、開国を迫ると、外国との付き合いかたをめぐって実力のある大藩が発言力を増し、混乱が進みます。結局、幕府は1867年に国を治める役割を朝廷に返上する大政奉還を行いました。

新たな国のありかたをめぐって翌年に戊辰戦争が戦われ、これに勝った薩摩（鹿児島）、長州（山口）、土佐（高知）、肥前（佐賀）などの藩の人々を中心に明治政府が作られました。明治政府は藩を廃止し、税金や学校など全国共通の様々な制度を作って行きますが、政府の中での相談だけで物事を決めるので、不満を持つ人もたくさんいました。

その中で一番大きな問題が、軍隊をどのように作るかでした。戊辰戦争で勝った側の藩の武士たちの多くは、今後も国の武力を担うのは自分たちを中心とした武士であるべきだと考えました。しかし、長州藩では武士以外の身分の人も含んだ「諸隊」が活躍しており、武士に任せるべきかどうかは疑問がありました。そして、この長州藩出身の人々を中心に、身分や戊辰戦争での勝敗に関係なく全国から徴兵して、政府の命令に従う新たな軍隊を作ろうという考えが生まれました。その背景には「諸隊」の一部が反乱を起こすなど、戦いに勝った軍隊が政府にとって扱いにくい存在だったことがありました。

藩のために戦場で仲間を失いながら命を懸けて戦い、勝利を獲得した武士たちにとって、このやり方は許せませんでした。彼らの多くが日本に対して無礼な態度をとる朝鮮に攻め込もうという征韓論をとなえます。彼らは外国を征服することより、徴兵制による軍隊ができる前に国として武力を使い、自分たちこそがその担い手であると示すことをめざしていました。一度は新政府の幹部になりながら、旧藩の仲間たちに同調して国許に帰る人も多くいました。こうして、戊辰戦争に勝った側の佐賀や山口、また熊本などでも旧武士である士族たちによる反乱が起こりました。その最後の、もっとも大きなものが西南戦争です。

西南戦争が起こった1877年には、新政府の陸軍はすべて徴兵制による軍隊になったところでした。鹿児島士族を中心とする反政府軍（薩軍）にとって、政府軍（官軍）を破ることは、徴兵制の軍隊は使い物にならず、武士を中心にした軍隊こそが国家のために必要であるという自分たちの主張を裏付けることになります。一方、政府は、徴兵制軍隊の正規軍だけではなく、鹿児島出身者の多い海軍や、巡査の形で志願してきた各地の士族たちの力も加えて何とかこれを鎮圧します。西南戦争は、国内勢力同士の最後の戦争、そして武士の時代の終わりを告げる闘いでした。

⑧ 高月官軍墓地（たかつきかんぐんぼち）
980名の政府軍兵士が葬られています。西南戦争の官軍墓地の中では最大級です。

⑨ 宇蘇浦官軍墓地（うそうらかんぐんぼち）
399名の政府軍、警視抜刀隊の兵士が葬られています。

熊本市北区植木町と玉東町に広がる遺跡

西南戦争の戦場は鹿児島、熊本、大分、宮崎の各県に広がり、そのこと自体が、西南戦争の規模の大きさと薩軍の粘り強さを示しています。そのなかで熊本市の植木町と玉東町の遺跡は、戦争の初期に士族の軍隊と徴兵制の軍隊が正面からぶつかり合って優劣を競った、西南戦争の歴史的な性格を最もよく表すものです。これには官軍が敗れた植木の初戦、官軍の砲兵、工兵や警視庁巡査の抜刀隊も参加して最大の激戦となった田原坂の戦い、また熊本隊が薩軍側で参加した吉次峠をめぐる戦いの地が含まれています。

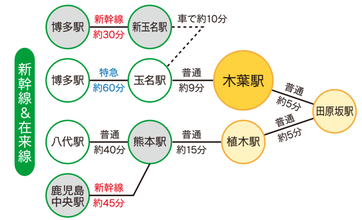
これまでの発掘調査により、官軍はもちろん薩軍も当初かなり多くの小銃弾を発射して近代の軍隊にふさわしい戦いをしたことや官軍砲兵の活動ぶりなどがわかり、戦争の実態をよく示す遺構が残っていることがはっきりとしました。埋葬地や記念碑も、両軍の戦没者が直後の時期にどのように扱われ、戦争がどのように位置づけられたかを示す点で貴重です。また、後の日本赤十字社につながる活動の舞台ともなった病院跡の街道に面した門や、田原坂の道筋、石橋などが当時から残され、地形の大幅な変更や景観を崩すような建築が行われていないことは、戦闘のありようを理解するだけではなく、地域の人々の関わりも含めた西南戦争の歴史を振り返る場としての価値を高めています。

（東京大学大学院 人文社会系研究科・文学部教授　鈴木淳）

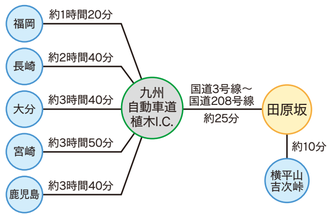
西南戦争激戦の軌跡

交通アクセス

JRをご利用の場合



自動車をご利用の場合



お問い合わせ

植木町・玉東町西南戦争遺跡群連携保存活用協議会

植木町合併特例区まちづくり班
〒861-0195　熊本市北区植木町岩野238番地1
TEL.096-272-0551 FAX.096-272-6916

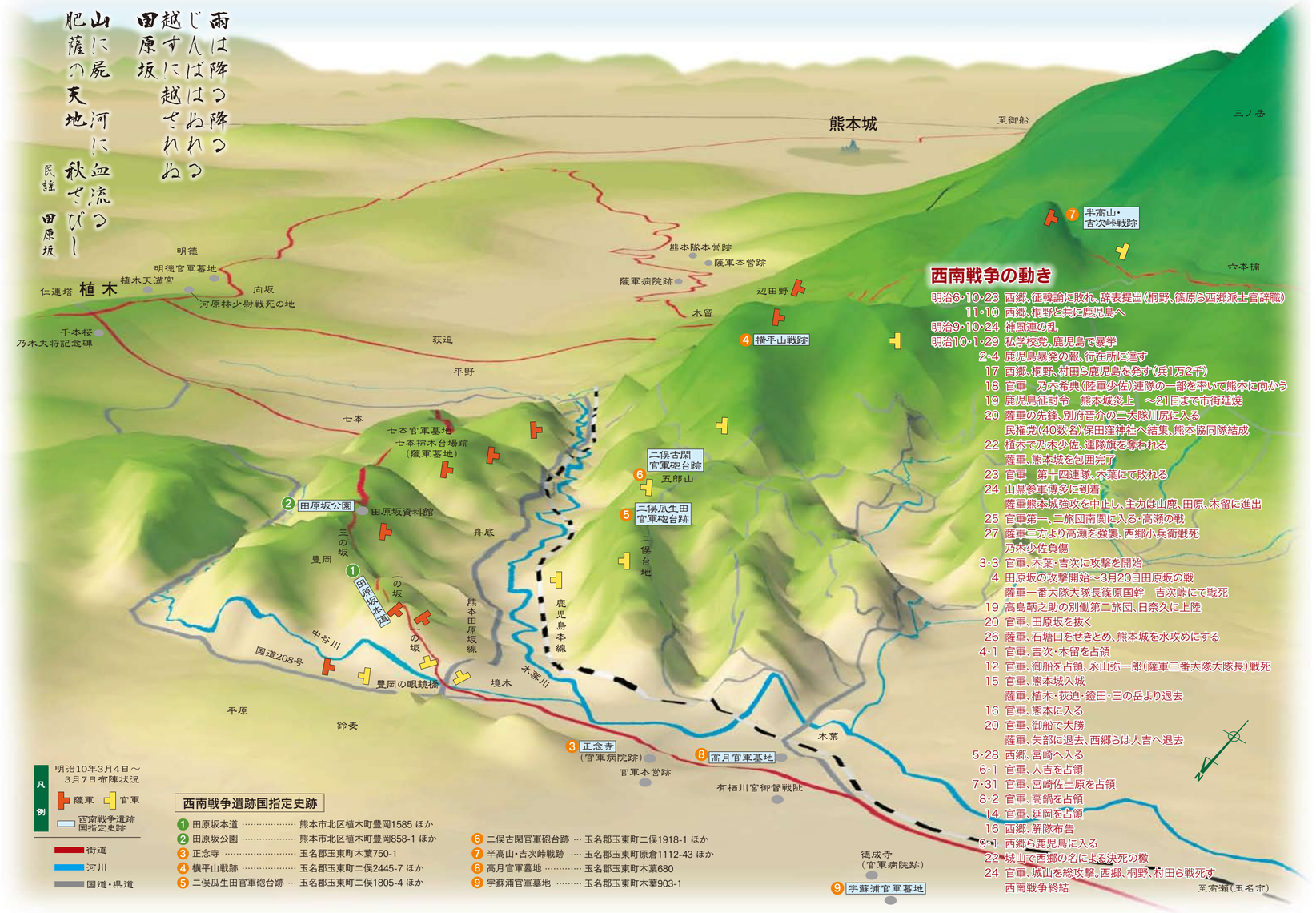
玉東町教育委員会 社会教育課
〒869-0312　熊本県玉名郡玉東町白木1番地1
TEL.0968-85-3609 FAX.0968-85-2276

植木・玉東「西南戦争」最新情報はこちら
http://seinansensou.jp

雨は降る降る じんばはぬれる 越すに越されぬ 田原坂

山に屍 河に血流る 肥薩の天地 秋せびし

民謡 田原坂



西南戦争の動き

明治6・10・23 西郷、征韓論に敗れ、辞表提出（桐野、篠原ら西郷派士官辞職）
11・10 西郷、桐野と共に鹿児島へ
明治9・10・24 神風連の乱
明治10・1・29 私学校党、鹿児島で暴挙
2・4 鹿児島暴発の報、行在所に達す
17 西郷、桐野、村田ら鹿児島を発す（兵1万2千）
18 官軍　乃木希典（陸軍少佐）連隊の一部を率いて熊本に向かう
19 鹿児島征討令　熊本城炎上　～21日まで市街延焼
20 薩軍の先鋒、別府晋介の二大隊川尻に入る
民権党（40数名）保田窪神社へ結集、熊本協同隊結成
22 植木で乃木少佐、連隊旗を奪われる
薩軍、熊本城を包囲完了
23 官軍　第十四連隊、木葉にて敗れる
24 山県参軍博多に到着
薩軍熊本城強攻を中止し、主力は山鹿、田原、木留に進出
25 官軍第一、二旅団南関に入る・高瀬の戦
27 薩軍二方より高瀬を強襲、西郷小兵衛戦死
乃木少佐負傷
3・3 官軍、木葉・吉次に攻撃を開始
4 田原坂の攻撃開始～3月20日田原坂の戦
薩軍一番大隊大隊長篠原国幹　吉次峠にて戦死
19 高島鞆之助の別働第二旅団、日奈久に上陸
20 官軍、田原坂を抜く
26 薩軍、石塘口をせきとめ、熊本城を水攻めにする
4・1 官軍、吉次・木留を占領
12 官軍、御船を占領、永山弥一郎（薩軍三番大隊大隊長）戦死
15 官軍、熊本城入城
薩軍、植木・荻迫・鐙田・三の岳より退去
16 官軍、熊本に入る
20 官軍、御船で大勝
薩軍、矢部に退去、西郷らは人吉へ退去
5・28 西郷、宮崎へ入る
6・1 官軍、人吉を占領
7・31 官軍、宮崎佐土原を占領
8・2 官軍、高鍋を占領
14 官軍、延岡を占領
16 西郷、解隊布告
9・1 西郷ら鹿児島に入る
22 城山で西郷の名による決死の檄
24 官軍、城山を総攻撃。西郷、桐野、村田ら戦死す
西南戦争終結

西南戦争遺跡国指定史跡

1. 田原坂本道 …… 熊本市北区植木町豊岡1585 ほか
2. 田原坂公園 …… 熊本市北区植木町豊岡858-1 ほか
3. 正念寺 …… 玉名郡玉東町木葉750-1
4. 横平山戦跡 …… 玉名郡玉東町二俣2445-7 ほか
5. 二俣瓜生田官軍砲台跡 … 玉名郡玉東町二俣1805-4 ほか
6. 二俣古閑官軍砲台跡 … 玉名郡玉東町二俣1918-1 ほか
7. 半高山・吉次峠戦跡 … 玉名郡玉東町原倉1112-43 ほか
8. 高月官軍墓地 …… 玉名郡玉東町木葉680
9. 宇蘇浦官軍墓地 …… 玉名郡玉東町木葉903-1

1 田原坂本道

豊岡の眼鏡橋からの標高差は僅か80mの田原坂。一ノ坂、二ノ坂、三ノ坂と1.5kmの曲がりくねった道が続きます。この道だけが唯一大砲を曳いて通れる道幅があり、この道を越えなければ官軍は熊本城へは進めません。また薩摩軍にとっては生死を制する道です。ともに戦略上の重要地であり、一見平凡なこの坂道を中心とした一帯が、西南戦争最大の激戦の舞台となりました。

調査では、薬莢や小銃弾が集中する激しい戦闘状況を示す場所がみつかりました。

2 田原坂公園

西南戦争では17日昼夜にわたる戦闘が繰り広げられ、官薩両軍とも若い兵士が多く命を落とした激戦の地、田原坂一帯は今では、ツツジや桜の名所として知られる美しい公園に生まれ変わりました。園内には、激戦の跡が生々しい弾痕の残る家（復元）や慰霊塔、土蔵造りの資料館が建ち、往時の戦いを知ることができます。

調査では、薩軍陣地が確認され、多くの遺物が出土しました。

◀豊岡の眼鏡橋

▲正念寺山門

3 正念寺

玉東町の木葉にある正念寺は2月後半から3月3日まで戦闘下にありました。そのときに両軍から発射された銃弾が今も山門に残っています。その後は官軍の繃帯所（救護所）として使用されました。博愛社の活動が始まった場所ともいわれています。

▲二俣瓜生田官軍砲台跡

▲横平山戦跡山頂部塹壕

4 横平山戦跡

横平山は二俣台地の南端にある標高144mの小高い山です。当時、薩摩軍が守っていましたが、官軍の侵略の要となりました。山頂部付近からは後装式銃の薬莢が多く見つかっており、当時薩摩軍が新式の銃をそろえて戦った様子が推測されます。また、薩摩軍の抜刀攻撃に対抗した官軍警視抜刀隊が出動したことでも知られており、刀の鍔も発見されています。

▲二俣古閑官軍砲台跡出土遺物

5 二俣瓜生田官軍砲台跡

6 二俣古閑官軍砲台跡

田原坂に布陣する薩摩軍に対抗するため、官軍は谷を挟んだ二俣台地に砲台を築きます。発掘調査では瓜生田地区と古閑地区において摩擦管（大砲を発射するときに使った発火管）が見つかりました。また、瓜生田の砲台跡では大砲を据え、発射した痕跡が遺構として確認されています。

▲半高山戦跡出土砲弾

7 半高山・吉次峠戦跡

吉次峠は、田原坂と同様に往還（当時の主要道路）が通る交通の要衝でした。半高山は薩摩軍熊本隊が守備するところであり、山頂部からは多くの薬莢や雷管等、発砲の痕跡を示す遺物が見つかりました。

▲半高山戦跡（吉次峠より望む）